

第5学年1組 道徳学習指導案

指導者 柏木 道子

1 主題名 みんなのために 4-(4) 勤労・社会奉仕

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目4-(4)は、「働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。」ことを主な内容としている。働くことは、生活していくための経済活動であるばかりでなく、社会の一員として貢献したり、自分の生きがいをつけたりする行為であるといえる。

高学年となり、学校全体のことを考えて働く活動や、総合的な学習の時間の「福祉」の学習を通して、以前よりも、勤労や社会奉仕について意識することが身に付いてきた児童である。しかし、まだ自分優先の行動をしていたり、率先して奉仕したりしようとする態度には、個人差を感じられる。

本校の研究テーマは「自己を見つめながら、よりよく生きることをめざす児童の育成」である。ここでは、働くことの意義を理解させると共に、だれかの役に立っているという満足感を味わわせたい。自己を高め、みんなのために進んで役に立とうとする心情を育てていきたいと考える。

(2) 児童の実態について (男子6人 女子12人 計18人)

5年生の児童は、なかよし班活動、登校班をはじめ、学校生活においてリーダーになり、働いている場面が見られる。

総合的な学習の時間の活動を通して、障がいをもつ人やお年寄りをはじめ、自分より弱い立場の人に対しての接し方もわかってきた。しかし、勤労や社会奉仕について自ら考え、実践している児童ばかりではない。

そこで、次のような意識調査をした。

(平成21年10月7日 18人調べ)

1 Aさんは、ボランティア活動で老人ホームに行き、お年寄りのお世話をすることになりました。

その時、どうすると思いますか。

それはなぜですか。

【判断】

- | | | | |
|----------------|-----|-----------------------|-----|
| ・進んでお世話をする | 15人 | ・お年寄りに喜んでもらいたいから | 12人 |
| ・みんなやるからお世話をする | 2人 | ・ボランティアをすると、気持ちがいいから | 4人 |
| ・少しだけお世話をする | 1人 | ・みんながやるので、一応やらないと変だから | 2人 |

2 障がいのある人やお年寄りのために、ボランティア活動をするのはどうしてだと思いますか。(複数回答)

- | | | |
|--------------|-----------------|--------------|
| ・一人だと大変そうだから | ・喜んでもらいたいから | ・自分も気持ちがいいから |
| ・元気になってほしいから | ・みんなで楽しく生活したいから | ・友だちになれるから |

この結果をみると、ほとんどの児童が「進んでお世話をすると判断しており、ボランティアをしたり、だれかのために働くことが大切だと考えていることが伝わる。心情をみても、喜んでもらいたい、みんなのために働くと気持ちがいい等、働くことの意義はわかっている。しかし、実際の様子を見ていると、進んで働いたり、社会のためにがんばるという気持ちをもって行動したりしている児童は少ない。

働くことの意義を学ぶと共に、みんなのために役に立とうとする気持ちを育てていきたい。さらには、社会に実践的に関わることで、だれかの役に立っているという満足感を味わえるようにしたい。

本時の授業では、価値の類型化をして考えを整理し、発表させたい。価値の一般化では、自分の考えをワークシートに書いて、じっくりと考えさせる。その後のグループの話し合い活動では、お互いの意見を聞き合い、自分の考えを深めさせたい。

(3) 資料について (読み物「ボランティアクラブに入って」 文溪堂)

本資料は、老人ホーム「いづみ園」を訪問した時の、優香の体験をもとにしている。お年寄りと交流したことがない優香は、最初は、老人ホームを訪問して、身の回りのお世話をすることには、気が重かった。

部屋をそろじしたり、手話の歌をうたったりすると、おばあさんが涙を流して喜んでくれた。この交流を通して、またいづみ園に来て、人の役に立つ活動をしたいと考えるという内容である。

優香の心の変化を追い、ボランティア活動や働くことの意義、だれかの役に立つことの喜びについて考えることを通して、「勤労・社会奉仕」の大切さに気づかせるのに適していると考え、本資料を選択した。

3 体験と道徳をつなぐユニット学習について

内容項目4—(4)「働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。」ことを目指し、事前の体験では、市内の老人介護施設「もみじ館」の訪問を実施する。

体験を通して、みんなが幸せに生きていく上で、自分たちにできることには何があるかについて考えたことをもとに、次の道徳では、みんなのために働くことの大切さや、喜びとは何かを考えさせたり、進んでみんなのために役立とうとする心情を育てたりする。

事後の訪問では、働くことの意義を理解し、社会のために役立つ体験を通して、自分に何ができるかを考えさせ、社会に奉仕し、公共のために役立とうとする態度を育てていきたい。

ユニットIV 「みんなのために」のねらい		
教科・領域	各時間のねらい	児童の意識
総合的な学習の時間	<p>『第1回もみじ館訪問』</p> <p>児童には、「障がいをもつ人やお年寄りに目を向け、共に幸せに生きる社会をつくっていくために、働くことの意義を理解して、進んで社会や公共の役に立とうとする態度を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 元気なお年寄りもいるし、体の不自由なお年寄りもいるな。 喜んでもらえて、うれしいな。 またもみじ館に来よう。 楽しんでもらうためには、次は何をすればいいだろう。
↓	<p>事前の施設訪問から学んだ、「あたたかい心で接し、役に立とう」という気持ちを、次の道徳4—(4) 勤労・社会奉仕では、「社会に奉仕する喜びを知って、公共のために役に立つことの大切さ」へと深めていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> これからも、お年寄りの役に立ちたい。 またボランティアをやってみたいな。
道徳	<p>『ボランティアクラブに入って』 4—(4) 勤労・社会奉仕</p> <p>みんなのために働くことの大切さや喜びに気づき、進んで社会のために役立とうとする心情を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> どんなことができるか、学級会で話し合おう。 お年寄りに、喜んでもらえる活動にしよう。 一緒に活動できて、楽しかったね。
↓	<p>総合的な学習の時間の体験や、道徳の授業を通して高められた「あたたかい心で接し、役に立とう」という気持ちを深めるため、次の総合的な学習の時間『第2回もみじ館訪問』では、学級会で話し合ったことをもとに、もみじ館を再訪問し、みんなのために役に立つことについて、実践的に学べる場をしたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> これからも、みんなの役に立つ活動をしていこう。
総合的な学習の時間	<p>『第2回もみじ館訪問』</p> <p>児童には、具体的な活動を通して、奉仕する喜びを知って、みんなのために役に立とうとする態度を育てていきたい。</p>	

4 ねらい

みんなのために働くことの大切さや喜びに気づき、進んで社会のために役立とうとする心情を育てる。

5 展開

主な活動と発問	予想される児童の反応	・支援 ◎評価
1 「もみじ館訪問」をふり返り、うれしかったことや、よかつたことを発表する。	・お年寄りが、私たちの訪問を歓迎してくれた。 ・お年寄りが喜んでくれて、うれしかった。	・「もみじ館訪問」を振り返り、学習への気持ちを高めておく。 ・「もみじ館訪問」の写真を掲示し、思い出せるようにしておく。
2 資料「ボランティアクラブに入って」を読んで、話し合う。 ○声をかけても、おばあさんから返事がなかつた時、優香さんはどんな気持ちだったでしょう。 ○手話の歌をうたつている時、優香さんはどんなことを考えていたでしょう。 ○おばあさんが涙をこぼしながら、手を握ってくれた時、優香さんはどんなことを考えたでしょう。	・緊張してきた。 ・無視されているのかな。 ・わたしにボランティアができるかな。 ・もっとおばあさんに喜んでもらいたい。 ・おばあさんの役に立ちたい。 ・わたしにできることをやってみよう。 ・喜んでくれて、よかつた。 ・最初は不安だったけれど、人の役に立ってうれしい。 ・だれかに喜んでもらえるようなボランティアを、これからもしたい。	・話の流れがわかるように、教師が朗読し、場面絵を掲示する。 ・集中して話を聞く雰囲気を作る。 ・お年寄りとの交流は初めてなので、自信がないことに気づかせる。 ・どう接したらいいか、困っていることに気づかせる。 ・おばあさんに喜んでもらいたい気持ちで、がんばっていることに気づかせる。 ・わたしにできることでいい、ということに気づかせる。 ・相手がうれしいと、自分もうれしいということを理解させる。 ・価値の類型化を図り、いろいろな意見が出るようにする。 ・意見の発表を効果的に進めるために、ネームプレートを活用する。 ・友だちの意見を聞くことで、心情に迫り、ねらいとする価値に気づかせたい。
3 自分の生活を振り返る。 ○みんなのために進んで働いたこと、だれかの役に立ってうれしかったことはありませんか。 ○ボランティア活動は、どんな気持ちで行うといいでしょう。	・もみじ館訪問では、リコーダーの演奏をして、お年寄りに喜んでもらえた。 ・募金をした。助け合いができてよかつた。 ・「もみじ館」でのように、喜んでもらえるように行う。 ・みんなのために一生懸命働くと、自分も気持ちがいい。	・事前アンケートに記録したことを思い出させ、発表できるようにする。 ・「勤労・社会奉仕」について書く活動を入れ、いろいろな意見を出させる。 ・グループによる話し合いを取り入れ、友だちの意見を聞くことで、自分の考えが深められるようにしたい。 ○働くことの大切さや喜びに気づき、みんなのために役立とうとすることの大切さを感じ取ることができたか。 (道徳ノート、話し合い)
4 ゲストティチヤーの話を聞く。	・だれかの役に立っていることで、自分も励まされる。これからも、ボランティアを続けていきたい。	・ゲストティチヤーの話を聞き、進んで働き、人の役に立つことをしようとする心情を高める。 ・ボランティアへの関心を深め、社会に実践的に関わろうとする心情を高める。